



学校だより

# はぎのだい

学校だより 2月号

令和3年1月29日(金)

校訓 自学 誠心 敬愛

津幡町立萩野台小学校長 青山 昌美

## 学校評価の結果をお知らせします

### ◇学校評価の結果及び分析・今後の方針について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をありがとうございます。12月の学校評価についてのアンケートへのご協力もありがとうございました。同時期に児童アンケートと教職員アンケートも実施し、それらの結果をもとに学校評価を取りまとめました。

全教職員でこの結果を共有して分析し、今後の方針を固めましたのでお知らせします。

#### 【学校評価の見方】

どの項目も、「重点目標について講じた具体的な手立てに確実に取り組めたか」という実施状況についての評価と、「その手立てにより、実際に成果が見られたか」という成果についての評価を行いました。そして成果についての達成率をもとに、各項目とも次のような基準で評価しました。

なお、平均値の最高値は「4」であり、平均値3.0ならば達成率は75%となります。

A: 平均値 3.5 以上 (十分達成している)	B: 平均値 3.0 以上 (概ね達成している)
C: 平均値 2.5 以上 (十分でない)	D: 平均値 2.5 未満 (不十分)

例えば、(1)『**根拠を明確にした論理的な表現ができる子**』の育成」の場合は、

実施状況の評価は次の2点のアンケート結果をもとに行いました。

- ・教職員アンケート「毎日の授業で『根拠に着目させる』『考えを持たせ、表現させる』『考えを表現し合わせ、深めさせる』手立てを1つ以上講じることができた」→結果 3.6
- ・保護者アンケート「学校(教師)は、分かりやすい授業をしている」→結果 3.5

平均 3.6

成果の評価は、次の3点のアンケート結果の平均値をもとに行いました。

- ・児童アンケート「毎日の授業で、自分の考えが持てている」→結果 3.2
- 「毎日の授業で、自分の考えを発表することはできている」→結果 3.2
- 「毎日の授業で、友達と考えを話し合うことは楽しい」→結果 3.1

平均 3.2

重点目標(1)の評価は、成果の評価が「3.2」なのでB評価(概ね達成している)となります。

なお、今回は評価データと評価は「→」をつけて表記しています。矢印の前が7月(中間評価)のもの、矢印の後が今回の評価結果となります。ただし、「6 業務改善」の項目については、後期より評価規準を変更しましたので、中間報告の記載はありません。

### 学校評価

	重点目標	評価データ	評価	結果の分析→今後の方針
1 学力向上	(1) 「根拠を明確にした論理的な表現ができる子」の育成	(実施状況) 教職員 3.1→3.6 保護者 3.5→3.5 (成果) 児童 3.3→3.2	B ↓ B	6月から継続した取組を行い、教職員の実施状況は上昇したが、そのほかの成果は横ばいである。今後も継続して取り組むことで、成果が見られるだろうと考える。 →筋道を立てた話し方の指導法についてさらに検討していく。特に、みんなの前で発言することに苦手意識を持つ児童が、授業において「発言できた」「わかってもらった」と思えるよう、配慮していく。
	(2) 「問題に合った答え方ができる子」の育成	(実施状況) 教職員 3.3→3.6 (成果) 児童 3.2→3.4	B ↓ B	実施状況、成果ともやや上昇した。問題に合った答え方の指導を全職員で共通理解して行ってきた。その指導が浸透しつつある。 →問題文が複雑になるとどう答えたらよいか分からない、という状況も見られた。今後は多様な問題を提示して指導していく。

	<p>(3) 基礎基本の定着</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>漢字 94% 計算 94% 言語 79%</p> </div>	<p>(実施状況) 教職員 3.5→3.6 保護者 3.6→3.3 (成果) 統一テスト正答率 93%→89% 児童 3.3→3.5 保護者 3.2→3.2</p>	<p>B ↓ B</p>	<p>帯タイムの活用については、前年度より実施状況が上昇し、一定の成果も出ている。 家庭学習については、児童の評価が上昇した。家庭学習を充実させている児童が増えたと考える。しかし、家庭学習の充実で課題が見られる児童への個別支援に使える時間が、学校では十分に取れない。家庭との連携を一層図る必要がある。 →帯タイムでは、言語に関する指導に一層力を入れる。 →家庭への協力のお願ひも含め、個別の声掛けを続ける。</p>
	<p>(4) ICT 機器等の効果的な活用</p>	<p>(実施状況) 教職員 3.7→3.6 (成果) 児童 3.6→3.7</p>	<p>A ↓ A</p>	<p>実施状況、成果とも前回同様A評価である。様々な教科の授業において、調べ学習や映像資料の視聴、学習のまとめの活動等に積極的にICTを使用させてきたことが、奏功したと考える。 →今後もICTの機能や活用法について、PCサポーターを含めた職員間で情報交換を行い、より効果的にICT機器を活用していく。</p>
	<p>(5) 英語教育の充実(町内共通)</p>	<p>(実施状況) 教職員 3.3→3.2 (成果) 児童 3.1→3.2</p>	<p>B ↓ B</p>	<p>実施状況、成果とも横ばいである。前期からの取組の継続で、クラスルームイングリッシュ一覧表を活用し、教職員は英語の授業では指示などでもできるだけ英語を使っている。児童は英語の音声に慣れ親しんでおり、英語への抵抗感は薄れてきている。 →クラスルームイングリッシュ一覧表をさらに指導に活用する。今後も定期的に職員間で英語表現を確認する場を設け、職員の意識を高める。</p>
<p>2 豊かな心の育成</p>	<p>(1) 自己有用感の育成</p>	<p>(実施状況) 教職員 3.6→3.7 保護者 3.7→3.6 (成果) 児童 3.1→3.3</p>	<p>B ↓ B</p>	<p>成果がやや上昇した。前回と変わらずB評価ではあるが、課題であった高学年の自己評価がかなり上昇し、児童の自己有用感の高まりが見られる。(5年生:2.5→3.0 6年生:2.8→3.4)。高学年の活躍の場を増やしたことやはぎのっ子きらりさんの取組、集会での「自分のよさ」の話など、これまでの取組の効果が表れ始めたと考える。 →引き続き、「ほめる」「認める」を軸に教職員の働きかけを行っていく。 →高学年の活躍の場を更に多く設ける。6年生を送る会、卒業式、新年度に向けての準備などで5・6年生に加え4年生も巻き込んだ形で活躍する場を作っていく。</p>
	<p>(2) 社会的生活習慣の定着</p>	<p>(実施状況) 教職員 3.5→3.3 (成果) 児童 3.2→3.2 保護者 3.3→3.3</p>	<p>B ↓ B</p>	<p>実施状況、成果ともほぼ横ばいである。児童・保護者の成果の平均値は「あいさつ:3.3」「言葉遣い:3.0」「より良い人間関係:3.5」となっており、児童・保護者ともに言葉遣いに課題があると感じていることが分かった。 また、あいさつについては「あいさつの声が小さい」と感じている高学年児童が多い。 →「相手に届く声で」「会釈をして」「視線を合わせて」「名前を呼んで」等、声の大きさ以外にも相手に伝わるあいさつの仕方を具体的に指導していく。 →言葉遣いでは、気になる言葉を見逃さず1つ1つ指導していく。また家庭と協力して言葉遣いを意識する取組の可能性を探っていく。</p>
	<p>(3) 道徳教育の充実</p>	<p>(実施状況) 教職員 3.2→3.7 (成果) 児童 3.3→3.5</p>	<p>B ↓ A</p>	<p>実施状況、成果とも上昇した。「道徳の授業で積極的に思いを表出できている」と感じている児童が増えた。担任一人一人が工夫しながら道徳の授業に取り組み、児童の思いを引き出したり、丁寧に見取ったりしてきた成果であると考えられる。 →引き続き、思いを表出しやすい授業づくり、学級づくりに取り組み、話し合いながら深める道徳授業の実現に向けて、授業づくりを続けていく。</p>

	(4) 夢や目標を持つ児童の育成	(実施状況) 教職員 3.2→3.3 (成果) 児童 3.2→3.2	B ↓ B	実施状況・成果どちらの結果も横ばいである。どの学級でも学期の始めや各行事の前には目標をもたせている。成果がA評価に至らないのは、児童にとって目標をもつことが「当たり前」となっていることも一因ではないかと考える。 →目標をもたせる取組を継続し、そのふり返りをする時間も確保する。ふり返りの時間には、目標を達成できた喜びや、達成できなかったくやしさを振り返らせる。また、教師からのコメントを読む時間も設定する。これらの取組により、目標に向かって努力することの良さをさらに意識できるようにする。
	(5) 特別支援教育の充実	(実施状況) 教職員 3.2→3.6 (成果) 教職員 3.3→3.1	B ↓ B	実施状況は上昇したものの、成果がやや下降した。児童一人一人を見取るための手立てを多く行っているが、その手立てによる児童の変容がやや見えにくい。 →支援しているにもかかわらず、児童に変容が見えにくい場合は、校内委員会等を開くなどし、職員間で支援方法についての協議や情報交換や、認められた小さな変化の共有をする。
3 健康的な生活習慣	(1) 健康的な生活習慣の定着	(実施状況) 教職員 3.3→3.5 (成果) 児童 3.5→3.5 保護者 3.1→3.1	B ↓ B	実施状況はやや上昇したが、成果は横ばいである。 歯科指導については、指導の結果、以前より歯磨きの意識が高まった児童もいたが、行動の変容に結びつかなかった児童も多い。 感染対策については教職員で共通理解を図り、繰り返しの指導を行うことができた。また、様々な行事において感染対策を実施することができた。 →今後も全体指導を続けるとともに、歯みがきが身につけていない児童には養護教諭と担任が連携して個別指導や声かけを行っていく。また、各取組の結果や学校での指導内容を保護者に伝え、家庭との連携を強化する。 →今後も、文科省のマニュアルや津幡町のガイドライン等に沿って、感染対策や保健指導を行っていく。 手洗い等について、必要なタイミングで行ったかを担任から確認したり放送で呼びかけたりするなど、日常的な声かけを強化する。 また、保健だより等を通じて、保護者の方に対しても引き続き感染対策や健康観察の協力を呼びかける。
	(2) 体力向上	(実施状況) 教職員 3.0→3.3 保護者 3.3→3.7 (成果) 児童 3.5→3.6	A ↓ A	実施状況、成果とも前回同様A評価である。「はぎのっ子ストレッチ」で使用する音源の配布や、ストレッチの内容の掲示などを行い、教職員がより体力向上に取り組みやすい環境を前期から整備してきた。 →引き続き、準備体操や整理体操に「はぎのっ子ストレッチ」を取り入れ、体の柔軟性を高める。また、ストレッチの内容の掲示を一層活用する。
4 危機管理	(1) 学校の危機管理能力の向上	(実施状況) 教職員 3.7→3.7 保護者 3.7→3.6 (成果) 教職員 3.3→3.5 児童 3.8→3.7	A ↓ A	実施状況、成果とも前回同様A評価である。児童の危ない行動や校内の危険箇所についても教職員間で情報共有し、児童への指導や危険箇所の改善につなげてきた。 しかし、児童・保護者の評価は7月よりも下がっている。これは、1学期に比べて2学期の避難訓練の回数が少なかったことも影響していると考えられる。防災意識を高めるためには、定期的な訓練が必要である。 →引き続き、環境整備、事前指導を確実にを行い事故の未然防止に努める。また、児童の安全に関する情報共有を行い、指導に生かす。様々な場面を想定した避難訓練を行う。事前・事後指導も確実にを行う。

5 連携	(1) 効果的・効率的な指導のための家庭・地域との連携	(実施状況) 教職員 2.7→3.5 (成果) 保護者 3.7→3.7	A ↓ A	実施状況、成果ともA評価である。実施状況の評価は大幅に上昇した。これは、全職員が学校HP「毎日のできごと」の更新に携わるようになったことによると考える。1学期(6・7月)の学校HPの1日平均アクセスカウン数は約490であったが、現在は約670に上昇している。また、一斉メールを有効に活用し、必要な情報を保護者へ適時連絡することができた。 →今後も、毎授業日、全職員で学校HPの「毎日のできごと」の更新を行っていく。一斉メールも適時活用する。 →これまで同様に、連絡帳や電話、おたより等でも、児童の様子を適時保護者の方へ伝えていく。
6 業務改善	(1) 教職員の働き方改革と業務改善	(実施状況) 教職員 3.1→2.8 (成果) 時間外勤務時間 一人当たり平均 60時間未満	A	実施状況は、7月よりやや下降した。2学期も時間外勤務時間の平均値が60時間未満を維持しているためA評価ではあるが、1学期よりは時間外勤務時間数は増えている。時間外勤務の内容は、研究授業の教材研究、担当する諸帳簿の整理、行事の企画・準備等である。 →年度末に行事等の精選を図る。スクールサポートスタッフ制度を活用し、教員の業務軽減を図る。

## 【2月の行事予定】

2日	火	スクールカウンセラー来校(午前)、全校集会(13:10)	
3日	水	津幡中学校入学説明会(児童対象)、自学ノート見合って学ぼう(~5日)、学納金振替日	
4日	木	授業参観(5限)、学級懇談会(14:50~)、14:45下校	
5日	金	家庭学習を見直そう週間(~10日)	
6日	土	津幡中学校入学説明会(保護者対象)	
7日	日	つばた子どもフェスティバル	
10日	水	委員会活動(6限)	
13日	土	PTA総委員会(萩野台コミュニティ)	11日(木) 建国記念の日 23日(火) 天皇誕生日
16日	火	スクールカウンセラー来校(午後)	
17日	水	特別日課 1~2年14:15、3~6年15:05下校	
18日	木	6年生を送る会リハーサル	
19日	金	6年生を送る会(2・3限)、学校評議員会	20日(土)はファミリー 読書の日です。
22日	月	1~2年14:30、3~6年15:15下校	
24日	水	代表委員会(昼ゆとり)、クラブ6限、4~6年15:55下校	
26日	金	統一計算テスト、ズック持ち帰り、1~2年14:30、3~6年15:15下校	

## 令和2年度体罰調査の結果について

先日の体罰調査について、体罰調査構成員の大西洋公民館長様と本校職員とで調査用紙を開封し、本校の体罰がゼロであることを確認しましたのでご報告します。ご協力をありがとうございました。

## 令和3年度の学級編制について

令和3年度の本校の児童数(見込み)は、次の表のようになります。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	かがやき	全児童数
見込み人数	3	10	5	6	7	10	1	42

そこで、令和3年度は、下の表のように、2・3年生と4・5年生が複式学級となります。

	1年	2・3年	4・5年	6年	かがやき	全児童数
見込み人数	3	15	13	10	1	42

なお、1年生の見込み人数が最も少ないにもかかわらず、1・2年生を複式学級としないのは、「1・2年生の複式学級の児童数は上限8人、1年生を含まない複式学級の児童数は上限16人」と定められているからです。

複式学級の編成については、2月4日の学級懇談会の際にも担任からお話させていただきます。